

看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を実践している現場での奮闘ぶりや、看護に対する熱い思いをシリーズで紹介します。

その人らしさを 支えるために

東神戸病院 一般病棟
田中 美佳さん



■ 私の職場とは

東神戸病院は現在、一般・回復期リハビリテーション・緩和ケア・コロナの4つの病棟で構成されています。

私の働いている一般病棟は、基幹病院で急性



「リハビリに行きましょ〜」

期の治療を終えたけれども、もう少し治療の継続が必要な方や自宅に帰るためのリハビリが必要な方のケアを行っています。また、当院かかりつけの患者さんの病状悪化の際の治療など、さまざまな方が入院されます。

一般病棟は予約入院だけでなく、救急搬送されてきた患者さんの入院もあります。現在コロナ下での入院はPCR検査・抗原検査を受けてから入院となっています。PCR検査は結果が出るまでに時間がかかるため、発熱がある患者さんや肺炎での入院の患者さんはコロナかもしれないと想定し、検査結果が出るまで隔離・フルPPEで対応したりとバタバタすることもあります。スタッフ間で助け合いながら対応しています。

■ 思いを大切に…

私たちの病棟では退院支援に力を入れており、患者さんご家族の思いを大切に意思の確認をしています。患者さんご家族の意思を早い段階で確認し、相違はないか、自宅に帰りたいと希望されている患者さんに自宅で介護してくれる方がいる



「次はおかゆです。どうぞー」

のか、どれくらい動けたら自宅でも生活できると考えているのかななどを聞いています。

また、当院は地域に根差した看護を目指しているため、在宅との連携も大切にしています。自宅に帰るためリハビリを頑張った患者さんが、自宅で生活するにあたり不便はないか、転倒リスクはないか、実際に患者さんの家に一緒に行き、家の中の動きを見たりすることもあります。

直接その人の生活を知ること、可能な限り患者さん・ご家族の意思を尊重しつつ、これからの生活を考え一番良い選択ができるようにサポートしています。

その人らしく生活するためには、どんなサービスが必要なのか、自宅での生活が難しく施設入所を考えている方はどのような施設が良いのかなどを患者さんと一緒に考えていきます。



カンファレンスの様子

■ まとめ

コロナにより情報収集など大変になったことも多く、すべての人の希望に沿った支援ができることは限りません。

その中でも患者さん・ご家族の意思を尊重し、一番良い生活を考えサポートできるように心がけています。そのために看護師だけでなく多職種とも協力しながら日々頑張っています。